

氏名： 徳井 淑子 (TOKUI Yoshiko)  
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系  
学位： 博士 (学術 2003)  
職名： 教授  
専門分野： 西洋服飾史、中世と近代を中心とするフランス文化史  
URL： <http://www.aesthe.ocha.ac.jp/fukshok%20histry/>  
E-mail： tokui.yoshiko@ocha.ac.jp

#### ◆研究キーワード / Keywords

服飾／色彩／紋章／中世フランス  
fashion / colour / device / mediaeval France

#### ◆主要業績

総数 (3) 件

- ・「解題： Philippe Perrot, *Le Luxe, une richesse entre faste et confort, XVIIIe-XIXe siècle*」『ドレスタディ』vol.51 京都服飾文化研究財団 2007年4月 pp.22-26
- ・「アンリ＝ルネ・ダルマーニュの軌跡」Henry-Rene d'Allemagne, *Les Accessoires du costume et du mobilier*(1928)の復刻版解説と目次翻訳 アティーナ・プレス 2007年5月 12p.
- ・「カロ『ロレーヌの貴族』」『文化学園図書館便り』no.145 pp.3-4 2008年1月

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

- 1 色彩文化史をジェンダーの視点から考察。色彩を女性性と結びつけるヨーロッパの心性について、中世から現代までの服飾の色のシンボリズムを通して分析、特に近代社会の倫理観と家族観に由来することを考察。
  - 2 『色彩の紋章』の書誌的調査。1528年版のテキスト校訂と注釈、および日本語訳の作成。
  - 3 紋章・文様の意想研究として、中世末期の「心」の文様の文学起源について考察。
- 1 Study of color and gender in European history, especially in the modern society through the fashion color.
  - 2 Bibliographical research of the “Blason des Couleurs”, edition of the text in 1528 and translation to Japanese.
  - 3 Study of literary source of the motif “heart”, a device in the late mediaeval France.

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

服飾の歴史を通してヨーロッパの人々の感性を知るには、どのようなアプローチがあり、どのように資料を使えばよいのか、西洋服飾史を概説するとともに、服飾史の調査の方法と資料を解説、合わせて服飾文化論を学ぶための基礎を講義した。

またフランス中世服飾に関する論文の講読と、18・19世紀の図像・文学資料の分析によって、服飾史と周辺的生活文化史に関する論文を作成するための基礎演習を行い、ヨーロッパの生活文化論に関する卒業論文の指導へと繋げた。

Lecture and seminar on cultural and historical studies of clothes, especially through the literary and iconographic sources in order to clarify the sensibility of Europeans.

## ◆研究計画

色彩文化史研究は始まったばかりであり、展開が可能な多くの領域を含んでいる。ジェンダーの視点はその一つであり、色彩論の著作の体系的な調査も課題として残されている。一方、文様史については、中世の紋章やドゥヴィーズの意匠について未だ研究はほとんどない。私たちに馴染みのハートの形象は、中世以来の西洋文明の精神性を宗教と世俗の両面でもっており、興味深い対象である。服飾の色彩と文様を切り口として、ヨーロッパの心性についてさらに考察したい。

## ◆メッセージ

日頃、何気なく使っている色や文様に深い歴史が隠されていることがあります。ファッションは生活のなかから歴史を見直してみる良いきっかけになります。多くの方にファッションの歴史研究に参加してほしいと思います。